

新聞に親しみ、社会に目を向けることのできる生徒の育成

～新聞の活用を通じた実践～

高鍋町立高鍋西中学校

教諭 下田 睦夫

1 はじめに

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で活動の基盤となる、いわゆる「知識基盤社会」と言われている。そのためには、学力はもちろんのこと、豊かな心、たくましい体を備えた「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童生徒の育成が必要である。そのような中、諸調査によると全国的に学習意欲や学習習慣、思考力や判断力や表現力等が充分とは言えず、「生きる力」を育む上で、基礎的・基本的な知識・技能の完全習得や活用を図る学習活動が課題となっている。

また現代は情報化の時代と言われて、新聞・放送メディア、インターネット等さまざまな情報手段が存在している。毎日さまざまな情報が氾濫し、情報過多の傾向は今後ますます増大するものと思われる。これらの氾濫する情報の波に飲まれることなく、それらの情報を単に取り入れるだけでなく、その情報をもとに自ら考え判断していかなければならない。

研究を進めていくにあたり、新聞記事を毎日の学習課題とし、それらの情報を生徒一人一人が自ら判断し、自ら考える「たくましく生きる力」を育成したいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

国語、社会、総合的な学習の時間、学活等の時間に新聞を活用し、新聞記事を毎日の学習課題とすることにより、新聞を通して「社会に目を向けるができる力」の育成を図る。

3 研究の仮説

○ 新聞を目にする環境を設定することにより、新聞への親しみが増し、社会事象に興味・関心をもち、その意味や意義、問題点等について考え、社会の変化に対応できる生徒が育成される

だろう。

4 めざす生徒像

- ①新聞記事から世の中の仕組みや問題点等について興味・関心をもつ生徒。
- ②新聞記事を学習資料として活用できる生徒。
- ③新聞の機能や役割を理解し学習のまとめができる生徒。

5 研究の内容

①毎日の学習課題(毎日ノート)への取り組みNIEの実践も二年目を経過し、生徒は毎日新聞を読むようになり、積極的に活用しようとする生徒が多くなってきたことがわかった。そこで多くの生徒が新聞を読むことが大切であると考え、以下の取り組みを行った。

まず、新聞記事による課題を授業(社会科・学級(毎日)で行い、全員の生徒に新聞記事の感想や意見を書いてもらった。

継続的に新聞記事を読むことを通して、生徒は社会事象に目を向けるようになり、記事に対する感想やコメントを書き添えることにより、情報を受け止めるだけでなく、自分なりに考えをもち、さらに深めることができるようになってきた。廊下にNIEコーナーを設けて、毎週各学級一名の「新聞記事の課題」の感想(生徒・保護者・担任)を掲示している。生徒は掲示された感想プリントに関心をもって見ている。感想プリントをお互いに参考しあうことも、自分の考えを深めることに役立っている。

②環境づくり

中学1年生に対してどのようにしたらよいのか見て分かるように、校長室・保健室前に「NIEコーナー」を設置した。スクラップ新聞の見本や新聞記事の感想を掲示したり、NIE担当者がスポーツなどの生徒に夢を与える記事を自ら切り抜き、感想を添えて掲示したりした。また、テーマに沿って新聞を作成しており、見やすく、充実したコーナーとなっていた。

6 社会授業実践指導案(3年3組)

本時の目標 ○選挙の原則のあらましについて理解できる。

○選挙の現状を理解し、選挙に対する興味・関心をもつことができる。

学習指導過程

段階	学習活動 学習内容	教師の支援・援助
つかむ	1 小テストをし、前時の確認をする。 それまでの学習内容から政治参加の方法を答えなさい。 2 本時の学習課題を知る。 国民はどうやって政治に参加するのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 間違いの多い問題については、解説を行う。 ○ 教科書で確認する。 ○ 本時の課題に生徒が興味・関心をもつように工夫し、提示しながら、民主主義の原則として、普通の選挙・秘密選挙・平等選挙であることを確認する。
見通す	3 選挙の原則・選挙制度について学ぶ。 (1)選挙はどのような方法で行われるのだろうか。 (2)国会議員の選挙はどのような方法で行われるのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 候補者を選ぶ方法と、政党を選ぶ比例代表選挙があることに気付かせる。 ○ 公職選挙法で決まっており、選挙管理委員会が選挙を運営していることを確認する。 ○ 衆議院・参議院とも、2種類の選挙を同時に行っていることを確認する。
深める	4 衆議院・参議院の議員選挙の制度について学ぶ。 (1)衆議院議員総選挙で、地域の選挙地区にはどんな人が立候補したか調べてみよう。 (2)誰に投票するか。その理由を考え、発表しよう。 (3)他の人の意見を聴こう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料プリントを配布し、自分で確認させる。 ○ 衆議院は、全国を300にわけた小選挙区から一人ずつ、全国11ブロックから比例代表で180人を選び、参議院は、都道府県ごとにわけた選挙区と、全国を単位とする比例代表で選ぶ方法があることを確認する。 ○ 新聞の記事から政見を読ませる「各候補者のプロフィール」を紹介する。 ○ だれに投票するか、選挙させる候補者について意見・支持しない理由を発言させる。声の大きさ、説明の理由の仕方に気をつけさせる。

③新聞づくり(修学旅行新聞等)

2年生は、昨年同様に修学旅行の新聞を作成し、自分たちの修学旅行の体験をまとめた。これも新聞作りを通して、自分たちの活動を振り返らせた。

このように新聞にまとめる活動は、まとめの学習活動として効果的であると考えられる。

確 か め る	<p>5 実際の選挙ではどうなったか調べてみる。</p> <p>(1) 当選した人は、この地域の有権者から何%から支持されたか調べてみよう。</p> <p>(2) どんな問題があるか考えてみよう。</p>	<p>○ 各候補者の選挙戦術をについての新聞記事等を読ませる。</p> <p>○ 新聞記事から確認する。</p> <p>○ 棄権する人がいることを確認する。</p> <p>○ 自由に意見を述べる。</p>
----------------------------	--	--

7 研究の成果

新聞に親しむことに重点を置き、全学級に授業(社会科)を通して、新聞記事に関する感想・コメントを生徒、教科担任に書いてもらった。生徒は記事の内容や感想など興味をもって見ている姿が見受けられた。

2年間の研究を通して、日常の常時活動により、今、何が社会で起こっているのか、どのような問題があるのかなどを考えるようになってきている。依然として番組欄やスポーツ欄を中心に読む生徒も多いが、それ以外の記事に目を通す生徒も確実にかなり増えてきている。

8 今後の課題

- ① 新聞記事を使った授業の充実
- ② 新聞を読む時間の確保と習慣づけ(家庭工夫)
- ③ 新聞記事の課題への取り組み充実

中学生校生活を送る生徒は、学習に部活動に忙しい毎日を送っている。どのようにすれば生徒が新聞に触れる時間をつくり出せるか、新聞を読もうとする意識を高めていけるか、取り組んできたが家庭での新聞活用事態を見ると、まだ充分とは言えない。今後、新聞を読む習慣をさらに育て、新聞の内容を対話の題材にできればと考える。NIEが生徒たちにとって極めて創造性の高い教育実践になって

いる。

新聞を読んで初めて触れる社会での出来事は生徒の中に新たな生活験として積み上げられる「創造物」なる。

同じ記事に対して自分とは異なる感想や意見が同級生の口から発せられる時、その言葉は、生徒の心に新鮮な響きとして伝わる。多くの生徒たちがNIEに積極的に取り組むのも、活動の中に創る喜びがあるからだ。その喜びがさらに次の学習への動機づけになり、学習の広がり、深まりにつながっていく。

NIEが、生徒たちが主体的に考え行動する力

を伸ばす教育活動の柱の一つにしていきたい。